



FFG調査月報の姉妹誌である「ながさき経済」を発刊する、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所が、長崎の旬な情報を提供する新コーナー「長崎だより」がスタートします。

第1回目となる今回は「長崎開港450周年記念事業～タカマルヨンゴーマル～」を同実行委員会に寄稿していただきました。これからもどうぞ楽しみに。

長崎開港450周年記念事業 ～タカマルヨンゴーマル～

長崎開港450周年記念事業実行委員会(事務局:長崎市企画財政部開港450周年事業推進室内)



南蛮人來朝之図(長崎歴史文化博物館蔵)

1 長崎開港

大航海時代、日本にやってきたポルトガル船との貿易港は平戸、横瀬浦、福田など各地を転々としていました。そのような中、入り江が深く、水深があり、キリスト教を受け入れてくれる領主がいる長崎は、ポルトガル船にとって理想的な港でした。こうして長崎港は1571(元龜2)年にポルトガル船の入港によって開港されました。長崎の港が開かれると、港に突き出た岬には島原町・大村町・平戸町・横瀬浦町・外浦町・文知町の6つの町が建てられ、人や文化が集まり、長崎は発展していきました。

450年の間に長崎の港は、ポルトガル交易の時代から、出島や唐人屋敷でのオランダ、中国との交易の時代、さらには居留地の時代、造船・石炭・水産の時代など、姿と役割を変えながら、長崎のまちに多くのものをもたらしてくれました。

長崎学を確立した古賀十二郎先生の詩が刻まれた碑が旧県立長崎図

書館の入口にあります。450年の長い歴史を端的に表しており、この言葉に触れた方はすつと心になじむのではないのでしょうか。

港あり

異国の船をここに招きて
自由なる町をひらきぬ
歴史と詩情のまち長崎
世界のナガサキ・・・





2 長崎開港450周年 記念事業

令和元年8月22日、長崎県、長崎商工会議所、長崎市が発起人となつて、官民141団体で構成する「長崎開港450周年記念事業実行委員会」を設立しました。

長崎港は、海外への玄関口として海外の産業・文化の受け入れに重要



な役割を果たし、明治時代には上海航路などの連絡船が寄港する歴史ある貿易港として発展してきました。そして今も、海外貿易の物流の拠点としての機能や、県内離島への産業活動・生活支援等の機能、東アジアに近い位置にある世界への玄関口としての国際ゲートウェイの機能としても重要な役割を担っている港湾であり、現在、「海の玄関口」である松が枝国際観光船埠頭においては、岸壁の延伸（2バース化）の早期事業化に向けて長崎県と長崎市及び経済団体などが連携して取り組んできました。（2026年 長崎港松が枝地区2バース化予定）さらには、長崎の海洋フィールドには、基幹産業である造船に加え、海洋構造物などの製造業をはじめ、流通、水産、レジャーはもとより、資源、エネルギーなど多様な産業があり、それらが連携することによる複合的な産業・研究の場としての可能性を秘めています。

実行委員会では、このような長崎港のあゆみを過去から未来に紡ぎ、

450周年のこの年を次の50年に向けたスタートの機会として位置づけ、長崎のまちが港とそこから広がる海洋とともに発展していくことを市民、県民が認識し、行動を起こす契機とするため、令和3年度に記念事業を実施しています。

事業を通じて、長崎の港が育んで



きた歴史や文化の継承及びシビックプライドの醸成と、それらを活かした魅力の発信による交流人口の拡大を図るとともに、広い海洋利用の視点に立った新たな海洋関連産業の育成・創出に向けた契機とし、新しい港の活かし方や海の楽しみ方の創造につなげたいと考えています。



3 長崎の港、まちが 楽しめる記念事業

① 長崎開港450周年記念式典

開港記念日である令和3年4月

27日、長崎ブリックホールで、「長崎開

港450周年記念式典」を執り行いました。本来であれば、2,000人程度の観客が収容できるこの会場に、多くの市民、県民の方をお招きして盛大にお祝いしたいと考えていましたが、新型コロナウイルス感染症の広がりが見られ始めたため、無観客開催のうえ、LIVE配信を行いました。

450年の歴史を感じていただける記念映像を、長崎開港400年に設立した長崎交響楽団による「ときめくみなと、つながるみんな」の演奏に合わせて上映し、幕開けを飾りました。長崎にゆかりのある名曲で編曲されたこの楽曲は、長崎市出身の作編曲家である河野久寿氏の手によるものです。

またゲストとして、長崎開港450周年記念ロゴマークをデザインした倉地孝幸さんと長崎ゆかりの著名人などにご就任いただいた「ヨングーマル大使」「ヨングーマルサポーター」のご紹介も行いました。

会場にお越しいただいたのは、ヨシ





ゴーマル大使として、元宝塚歌劇団花組トップスターの安寿ミラさんと地元CMでおなじみの松尾悠花さん、ヨンゴーマルサポーターとして地元テレビ局のアナウンサー、ロマン長崎、まち歩きの人達、Vファーレン長崎のヴィヴィくん。会場にお越しいただくことは叶いませんでしたが、草野仁さん、前川清さん、ロックバンドストレイテナーのホリエアツシさんとナカヤマシンペイさんからの動画メッセージなども紹介させていただきました。

第1部の最後には、全員で「450th」と書かれた黄色の手旗を一齐に振り、声を出さずとも会場には一体感が生まれました。

第2部では、記念アトラクションとして長崎市演劇協会による演劇も上演され、450年前の長崎の人々の姿を想起させるような一幕もありました。

最後に、「長崎みなとトーク」と題して、さだまさしさんと長崎市長によるみなとにまつわるトークが繰り

広げられました。多数の方に観覧の事前応募をいただいていた2人のお話でしたが、LIVE配信のみの開催となり、最終的に最大視聴者数約800名、再生回数約3000回でした。なお、配信した映像の一部は長崎開港450周年記念事業実行委員会のホームページからご覧いただけます。

② 今後のイベント開催

春に予定していたスタートアップイベントの一部が中止になるなど、予定通りのスタートとはいかなかったものの、通年イベントや夏以降のイベントを次のとおりテーマを設けて実施予定としています。



実行委員会主催の 主なイベント予定

※新型コロナウイルス感染症の状況により、イベントの中止・開催内容の変更の可能性があります。

夏 (延期) ながさきみなとまつり

夏の長崎の恒例イベント。長崎水辺の森公園から観る花火は圧巻です。残念ながら新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、今年の夏の開催は延期となり開催時期については未定です。

秋 長崎開港フェスタ450 (ヨンゴーマル)

日程 令和3年10月16・17日(土・日)
長崎開港後の町建てが行われた現在の万才町周辺をメイン会場としてイベントを開催します。ここを会場とするイベントは近年行われていませんでしたが、開港の地、そして長崎のまちの原点とも言える場所に焦点



を当て、市民、県民のみなさんに改めて長崎のまちに興味を持っていただければと思います。

フェスタではステージイベントや物販などを予定しており、長崎開港450周年らしい”特別な”2日間になるように企画を進めています。中には長崎開港を語るに欠かせない、海外からの貿易帆船―来航船―が現代の長崎に集結するイベントも予定しています。

冬 長崎開港シンポジウム 500(ゴーマル)

日程 令和4年1月29日(土)

新たに長崎市に完成する「出島メッセ長崎」コンベンションホールで、50年後の「みなとまち長崎の未来像」を発表するシンポジウムを開催する予定です。未来像を作成するために実行委員会では長崎県民、市民にアンケート調査を行ったり、ワーキンググループでの協議を重ねたりしてきました。長崎を好きなみなさんの想いが詰まった未来像を、長崎開港

500周年の未来に向かって発信したいと思います。

また、このシンポジウムが記念事業の主なイベントとしては最後となります。未来へ気持ちよくスタートを切る場したいと思います。

連携補助事業 10件採用

令和2年度に記念事業の実施効果をいっそう向上させ、長崎県民、長崎市民の皆さんに積極的に参加をいただくため、「長崎開港450周年記念連携事業」を企画運営する団体に対し、予算の範囲内において補助金を交付する長崎開港450周年記念連携補助事業を募集しました。厳正な審査の結果、長崎開港450周年を記念するにふさわしい取り組みやイベント等を10件選定しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、一部中止や内容の変更は生

じていますが、海や食、教育に関する催しなど、様々な分野の催しが予定されています。

新型コロナウイルス 感染症対策

今年度この事業を実施するうえでは、新型コロナウイルス感染症拡大の状況が開催可否に大きく関わってきます。この状況下で事業を行うには十分な対策が必要とされますので、常に感染症の状況を注視し、安全な運営を行いながら、長崎開港450周年を市民、県民の皆さんと節目の年をお祝いしたいと思います。

長崎開港450周年 記念ロゴマーク

官公庁、企業・団体、個人等などたでも無償で使用できます。商品等への表示も可能です。報道機関が報道

及び広報の目的で使用するときや営利目的ではない場合、それから学校の授業での利用や個人がブログ・SNS、名刺等で使用する場合は、簡単な届け出だけですぐに使用いただけますので、ぜひご利用ください。

使用方法を記載したマニュアルやロゴマークのデータについては、長崎開港450周年記念公式ホームページで公開していますのでご覧ください。

長崎開港450周年記念事業 実行委員会事務局



〒850-8685 長崎市桜町2-22 本館4階
(長崎市企画財政部開港450周年事業推進室内)
TEL: 095-829-1282
公式ホームページ: <https://nagasakiport450th.jp/>



長崎は、2021年4月に開港450周年を迎えました。



長崎開港450周年
SINCE 1571

つと
なき
なが
めく
るみ
んな
と、
なと

／カカル ヨンゴール／

長崎開港
450th
NAGASAKI PORT

南蛮人

フィリップ・フランツ・フォン
シーボルト

大浦 慶

トーマス・フレッド
ブラバー



国際信号旗は旗毎にアルファベットが割り当てられています。こちらは「NAGASAKI」と表記されています。

開催期間

2021.4
2022.3

開港
記念日

2021.4.27 TUE

▶ 長崎開港 450 周年記念ロゴマーク
令和元年 3 月公募により決定



開港した長崎港をイメージし、大海原に当時寄港したポルトガル貿易帆船を構成してデザイン化。背景には、鎖国時代も西洋との窓口として開かれてきた出島を配し、波形は海と港を活かして培われた長崎の歴史と発展の流れとともに、長崎の魅力を国内外に発信し、次世代に繋がる想いを込めたニューウェーブを表しています。
※どなたでもご使用いただけます。公式 HP からマニュアルをご覧ください。

▶ お問い合わせ 長崎開港 450 周年記念事業実行委員会事務局
095-822-8888 (あじさいコール)



公式HP